

令和6年亀岡市議会定例会
令和7年3月議会一般質問

亀岡市議会

令和6年亀岡市議会定例会令和7年3月議会 一般質問順序予定表

開催日及び開始予定時間		質問者（会派名）			質問方式
2月28日（金）	10:00～	代表	1	山木 裕也（亀岡有志の会）	一括
			休憩		
	13:00～		2	片山 輝夫（共産党議員団）	一括
			休憩		
	14:30～		3	林 徹司（公明党議員団）	一括
			休憩		
	16:00～		4	菱田 光紀（新清流会）	一括
3月3日（月）	10:00～	代表・個人	5	齊藤 一義（経政会）	一括
			休憩		
	13:00～		6	松山 雅行（躍動～輪の風～）	一括
			休憩		
	14:30～		7	原野 実生子	一問一答
	15:15～		8	三上 泉	一問一答
			休憩		
	16:15～		9	山本 由美子	一問一答
3月4日（火）	10:00～	個人	10	小林 仁	一問一答
	10:45～		11	平本 英久	一問一答
			休憩		
	13:00～		12	土岐 新	一問一答
	13:45～		13	木村 勲	一問一答
			休憩		
	14:45～		14	大西 陽春	一問一答
	15:30～		15	富谷 加都子	一問一答
			休憩		
	16:30～		16	大石 慶明	一問一答
3月5日（水）	10:00～	個人	17	梅本 靖博	一問一答
	10:45～		18	福井 英昭	一問一答
			休憩		
	13:00～		19	竹内 博士	一問一答
	13:45～		20	西口 純生	一問一答
			休憩		
	14:45～		21	法貴 隆司	一問一答

【注意】

質問者の日程については予定であり、議事の進行により変更する場合があります。ご了承ください。

令和6年亀岡市議会定例会令和7年3月議会 一般質問通告書

番号	質問者 質問日時	質問事項	質問要旨	答弁者
1	山木 裕也 (亀岡有志の会) 2月28日(金) 10:00～ ※代表質問 (一括)	1 令和7年度 予算について	令和7年度予算編成の基本方針の、第5次総合計画の着実な推進、市制70周年記念事業の推進、全国都市緑化フェア in 京都丹波を契機としたさらなる飛躍の予算内容について問う。 (1)一般会計484億4000万円、特別会計314億183万円の合計798億4183万円と予算規模が過去最高となる。今後、恒久的に自主財源を確保するための取組は。 (2)令和6年度のふるさと納税は、1月時点で昨年度を上回る40億円を超える水準となっている。今後、ふるさと納税を安定確保するための取組は。 (3)第5次亀岡市総合計画にある互いを認め合う、ふれあいのまちづくりの主要施策は。 (4)市制70周年記念事業の推進での事業規模と予算規模は。 (5)安全で安心して暮らせるまちづくりのための施策は。 (6)子どもファースト事業での子どもファーストクーポン事業(仮称)とは。 (7)豊かな学びと文化を育むまちづくり予算での学校関係の主要施策は。	市長 教育長 所管部長
		2 農業支援について	昨年は、日本や世界の平均気温の記録が相次いで更新されるなど、農作物に多大なる影響を及ぼした。特に京都府が全国3位の収穫高実績を誇る小豆もほぼ壊滅状態であった。今後の農業支援を問う。 (1)昨年度の小麦、小豆の収穫量の平年比は。 (2)農作物被害状況は把握されているのか。 (3)今年の夏も高温と予測されるが対策は。 (4)亀岡市内農業従事者の収入保険の加入状況は。 (5)農業保険加入促進に向けた取組の考えは。	市長 所管部長
		3 土づくりセンターについて	亀岡市土づくりセンターは、長年、異臭が問題視されている。建築から27年経過し、建屋も老朽化していることから問題は多岐に渡っており、抜本的な問題解決が地元の大きな課題である。 (1)土づくりセンターの利用状況の推移を問う。 (2)建屋から雨漏りが発生していると聞くが対策は。 (3)当施設からの異臭被害の報告はあるのか。 (4)地域を超えた包括的な運営の可能性は。	市長 所管部長
		4 オーガニッ	本市オーガニックビレッジ宣言に基づいて有	市長

		クの推進について 5 地域交通について 6 公園の管理について	機農作物の導入が進んでいる。今後、さらなる有機農業推進の理念を具体化し、促進するために問う。 (1) 本市のオーガニック野菜促進の推進状況は。 (2) オーガニック促進に向けた課題は。 (3) オーガニックを気軽に食べていただくための考えは。 (4) スポーツアスリートに向けた促進を考えてみては。 本市コミュニティバスは公共交通空白地の解消に必要な手段である。西つつじヶ丘地域については、人口密集地や丘陵地があり、高齢化が進んでいるなどの点からますます需要が高まっている。 (1) ここ数年間の、ふるさとバスやコミュニティバスの利用者数の推移は。 (2) バスの利用促進のための施策は。 (3) 敬老乗車券の来年度の発行予定は。 (4) 地域ごとに、行先別ルートの詳細を記載した利用ガイドを作成してみてもは。 (5) バス関連のPRイベントを開催してみてもは。 公園は、地域住民の憩いや休養の場所であり、子どもたちの健全な育成場所としてレクリエーションやスポーツの場となり体力増進などに寄与している。また、災害時には、避難場所にもなる地域の重要な拠点である。 (1) 亀岡市の都市公園数及び開発公園数の推移は。 (2) 都市公園及び開発公園の管理状況は。 (3) 今後、負担が増えていくと予想される公園管理費を賄うために、ネーミングライツパートナーを募集してみてもはどうか。	所管部長 市長 所管部長 市長 所管部長
2	片山 輝夫 (共産党議員団) 2月28日(金) 13:00～ ※代表質問 (一括)	1 市長の政治姿勢について	市長の政治姿勢について問う。 (1) 昨年12月に日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞され、さらに今年は戦後80年という節目の年である。 ①日本被団協のノーベル平和賞受賞に対する市長の所見は。 ②世界連邦・非核平和都市宣言を発する都市として、市制70周年の記念事業で、日本被団協の代表を招いた講演会を開催する考えはないか。 (2) 物価高騰が続く、エンゲル係数が過去最高に並ぶ28%に達する中、市長は市民の暮らしの実態をどう認識しているのか。 (3) 北陸新幹線延伸計画は、課題山積で工事着工は延期されたが、延伸計画に対する市長の見解は。	市長 教育長 所管部長

		(4) 大阪・関西万博の学校無料招待の不参加校が増えている。家庭の弁当持参や公共交通機関利用時における引率教師の苦労、会場での安全確保に体調管理といった関係者の負担増に加え、バスの確保も難しいなど課題が山積している。開幕まであと2か月、参加を再検討すべきではないか。	
	2 令和7年度 予算編成について	令和7年度の予算編成について問う。 (1) 新火葬場建設に係る設計業務委託経費が計上されているが、地元住民には未だ何の説明もされていない。基本構想の内容や今後の予定など丁寧な対応が求められるが、その考えはないのか。 (2) 第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波の関連事業費は、令和5年度3,179万円、令和6年度4億7,630万4千円、令和7年度23億745万7千円の合計28億1,555万1千円の巨費になる。さらに、令和6年度補正予算6億円の復活と令和8年度の要望額を追加すれば、40億円に達するほどである。整備事業のほとんどは手つかずの状況であり、準備期間が1年半余りを考慮すると、整備内容を厳選し必要最小限に留めるべきでないか。 (3) 投資的経費の内、普通建設事業費は対前年比186.6パーセントと突出した伸びを示しており、一定ハード事業の整備による市民生活の利便性の向上を図ることは必要であるが、一方で保険料や公共料金の値上げが予定されていることについて、ますます苦しくなる市民の日常生活に目を向けることも必要であると考え。 ①国民健康保険料をせめて据え置きにすることはできないのか。 ②証明書発行手数料や火葬場使用料などの公共料金も同じく据え置きにできないのか。 (4) 子どもファーストクーポン事業（仮称）を物価高騰に苦しむ全市民に拡大してはどうか。	市長 教育長 所管部長
	3 環境政策について	環境政策について問う。 (1) 河川の水質検査は定期的に市内35か所で測定されているが、その測定結果は公表されているのか。 (2) 京丹波町で産業廃棄物処理場付近の河川下流地点でPFASの測定値が許容値を上回り、地域住民に不安が広がっている。本市の埋立処分場付近の河川下流地点でPFASの測定を行う考えはないのか。 (3) 蒔田野町奥条の残土処分場に連日大量の土砂が搬入されている。どのような土砂が搬入	市長 所管部長

		されているのか不安の声がある。市民はどのような方法で土砂の情報を入手できるのか。 (4) 危険な盛土等を規制する取組が始まっている。宅地造成及び特定盛土等規制法（盛土規制法）が令和5年5月26日に施行され、今後規制区域の指定が進められているが、府に対しどのような意見を述べたのか。また、現在の進捗状況と今後のスケジュールは。 (5) 上記指定と本市の「亀岡市土砂等による土地の埋立て、盛土、堆積行為及び切土の規制に関する条例」とはどう関連するのか。	
	4 地元事業者の支援と中小企業振興について	人件費や資材価格が上昇する中、価格転嫁が難しい中小企業の経営は厳しさを増している。 (1) 長崎県大村市は中小事業者への直接支援として、1事業者3万円から7万円の事業継続支援給付金制度を創設した。本市も市内事業者に支援金を支給する考えはないのか。 (2) 今こそ市が率先して賃上げを促す賃金下限条項入りの公契約条例が必要ではないか。 (3) 地元で経済を循環させるため、地元事業者に発注した場合に費用助成を行う「住宅・商店リフォーム助成制度」を創設してはどうか。 (4) オープンイノベーションセンター・亀岡で形成された枠組みを位置づけ、関係機関の責務と役割を明確にした「中小企業振興基本条例」を制定してはどうか。	市長 所管部長
	5 公共交通対策について	本市の重要課題として、市民の移動権をどう保障するのかが問われている。 (1) 亀岡市地域公共交通計画の「目標達成のための具体的な施策」を実現するためには、部局横断型の対策室が必要と考えるが所見は。 (2) 地域公共交通を支える運転士の人材確保への支援を抜本的に強化する施策を考えるべきではないのか。 (3) 本計画の関心の喚起方策の一つとして、「市民ノーマイカーDayの継続実施」の箇所、「バス路線沿線の医療施設への無料乗車券の配布」とあるが、いつどのような手法で実施するのか。 (4) 自治会や市民から寄せられているバス路線の、経路やダイヤの具体的拡充・見直し要望に対して、文書で回答するべきではないのか。	市長 所管部長
	6 農業振興について	京都府農林水産部が平成30年に農林業センサスを基に基幹的農業従事者数のすう勢をシミュレーションした「農業の現状と課題、目指す方向について」によると、南丹地域は2030年には2015年の基幹的農業従事者数3,586戸が1,421戸まで減少すると想定して	市長 所管部長

		7 会計年度任用職員の処遇改善について	おり、亀岡市に当てはめると、販売農家1, 807戸が716戸に激減することになる。今後の農業振興の在り方について問う。 (1) この8年間の販売農家数と主要作物の栽培面積は減少傾向にある。現在2025年農林業センサスの調査が行われているが、市は今後10年の農家数の推移をどのように分析しているのか。 (2) 今後、亀岡市の農業を維持発展させるために必要な農家数はどの程度必要と考えているのか。 (3) このまま全国で農家が激減すると、米の需要量に生産量が追い付かなくなると言われており、食料自給率向上が重要課題になる。本市で制定を予定している(仮称)亀岡市自然環境を重視した食と農のまちづくり条例に自給率向上の項目を追加してはどうか。 (4) 農家の減少により、農地の荒廃、農道・水路・ため池等の維持管理が困難になる。現行の農業支援策の活用には、一定の制限があるが、営農の継続意思がある全ての農家を対象とした適用条件に拡充すべきではないか。 国の非常勤職員は、令和7年度より休暇制度が改善される。 (1) 会計年度任用職員の処遇は、これまで国に準じて取り扱ってきたが、令和7年度より国同様の処遇改善を行うのか。 (2) 子の看護休暇、親の介護休暇等無給の特別休暇について、働き方改革の一環として有給とすべきではないか。	市長 所管部長
3	林 徹司 (公明党議員団) 2月28日(金) 14:30~ ※代表質問 (一括)	1 本市の財政状況について 2 相互・協働ふれあいのまちづくりについて	少子高齢化に伴う重要な課題は本市においても、今後、大きな影響を受ける。恒久的に安定した行政運営を施行していくためにも、計画的で強固な行財政基盤の整備と財源確保の見通しについて問う。 (1) 財政調整基金をはじめとした本市の貯金としては幾らあるか。 (2) 本市の負債や借金としては幾らになるのか。 (3) 歳入・歳出の現状から本市の財政状況と今後の不安要素はどうか。 (4) 総務省より令和7年度地方財政対策の概要が発表されているが本市の財政に対してはどう期待できるのか。 (5) 本市独自の安定的な財源確保の計画と効果はどのように考えているのか。 本年は亀岡市制70周年の佳節を迎え、多くの事業も予定されている。イベントを通して本市の先進的な特徴ある取組を全国に発信できるチャンスである。そのためにも多くの市民に興味を持	市長 所管部長 市長 所管部長

		ち参加いただき、ともに取り組んでもらうことが重要である。 (1)市制70周年における記念事業はどのような予定をしているのか。 (2)続いて令和8年開催予定の全国都市緑化フェアin京都丹波についても市民協働としてはどのように考えているのか。 (3)京都府は産業創造リーディングゾーン推進事業として京都サンガスタジアムを拠点とした取組を拡充予定であるが、本市としての取組の考え方は。 (4)本市に関心を持ち来てもらえる交流人口の増加について、どのように考えているのか。 (5)本市のポテンシャルを生かし、これからの施策として、空き家の課題にも関わるとされる二地域居住についてはどのように考えているのか。	
	3 防災・減災の取組について	能登半島地震から1年と約2ヶ月が経過したが、いまだ多くの課題を残している。災害に備え、最小限に抑える防災・減災の取組が重要である。 (1)安全なわが家の木造住宅耐震化促進事業における木造住宅耐震診断士派遣事業及び木造住宅耐震改修事業補助金について問う。 ①令和6年度実績は。 ②診断士が不足しているのでは。また、このことが事業進捗について影響しているのでは。 (2)震災や災害が発生した場合、本市の給水体制はどのように取り組むのか。 (3)文部科学省より避難所となる全国の小中学校体育館等への空調整備を加速させるため空調設備整備臨時特例交付金を決定したが、本市としての取組は。 (4)亀岡市防災士養成事業については先進的な取組として評価されるが、地元地域で、より活躍できる取組を後押ししてはどうか。 (5)災害時物資の供給や状況確認などにドローンを活用した取組はどのようになっているのか。	市長 教育長 所管部長
	4 安全で安心な上下水道事業について	埼玉県八潮市で発生した大規模な道路陥没事故では地域住民の方を含め甚大な被害となっている。 (1)本市において、事故現場と構造が類似したような地域箇所はないのか。 (2)危険箇所や水道の老朽管を把握し、順次、耐震化や事故防止に努める計画は。 (3)下水道ポンプ装置の設置箇所数は。 (4)ポンプ装置はアナログからデジタル化対応していると思われるが、混在する現状は。 (5)計画的に入替えが行われているが、入札により多くのメーカーが混在し管理が難しい	市長 所管部長

		5 誰もが快適な生活を実感できるまちについて	のでないか。 (6) 災害時、混在するそれぞれのメーカーや機種に対応する必要があると考えるが懸念はないのか。 子育て現役世代から低所得者や年金くらしの高齢者の方など、物価高騰に苦しむ市民は多いなか、誰もが快適な生活を実感できるまちづくりが必要である。 (1) 子どもファーストクーポン事業（仮称）は評価できるが、対象者以外の市民に対する本市独自としての物価高騰に対する具体的な支援策をどう考えるのか。 (2) 少しでも先に用立てる金額を低くすることは負担軽減となる。高額介護サービス費について受領委任払いを採用してはどうか。 (3) e スポーツ大会「かめおかカップ（仮称）」が9月開催予定とされているが、シルバーeスポーツにも取り組んではどうか。 (4) 犬猫の保護活動などをボランティアで行っている方も多く、里親募集の情報発信などの取組も、犬とくらしやすいまち亀岡を推進する事業に取り入れてはどうか。 (5) 持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドラインにより、亀岡市立病院経営審議会が開催されている。入院患者からの食事への不満や、外来患者からの待ち時間への不満が報告されているが、改善はされているのか。	市長 所管部長
4	菱田 光紀 （新清流会） 2月28日（金） 16:00～ ※代表質問 （一括）	1 市長の政治姿勢について	本年、市制70周年の節目を迎える。亀岡市誕生以来、多くの先人によって受け継がれ、培われてきた人づくり、まちづくりに感謝すると共に、「人と時代に選ばれる リーディングシティ亀岡」として次代に向かって確かな歩みを進めていかなければならない。 (1) 当初予算に計上されている次の市制70周年記念事業の概要とそこにかける思いは。 ①「みんなに伝えたい！ 亀岡市手話言語及び障害者コミュニケーション条例」については。 ②かめおか・子どもファースト・EXPO（仮称）については。 ③健康まちあるき&シンポジウムについては。 また、施政方針・予算編成方針で述べられた次のことに対する思いは。 ④蔦屋重三郎が出版した「心学早染草」と石田梅岩記念館とのつながりをどのようにアピールするのか。 ⑤「国際安全都市」アジア大会を機に、全国、世界に向かって、さらには未来に向かってどのような発信をするのか。	市長

		⑥来年9月18日に開幕する「全国都市緑化フェア in 京都丹波」に向け、亀岡市として「環境」「食農」「芸術」を個性豊かに発信するとともに、一過性のものにしないためどのような工夫を考えているのか。 ⑦広域幹線道路（国道9号ダブルルート）と国道9号のバイパス道路としての地域幹線道路（市道城山医王谷中山線）について、今後の条件整備や市民理解醸成、工程管理をどう考えているのか。 （2）先日、総務省が発表した人口移動報告によると京都府では、2023年が2,635人、2024年が4,761人転出超過となっている。本市の状況は。 （3）本市においても転入超過が続くように若者や女性に選ばれる環境整備が必要だと考えるがどのように取り組むのか。 （4）大阪・関西万博における本市のシティープロモーションの取組は。 （5）上下水道等ライフラインの強靱化に向けた取組状況は。 昨年7月、京都府は「文化が活きる京都の推進に関する条例」を制定した。その前文には、「全ての府民が大切に受け継いできた京都の文化に誇りと愛着を持って生活することができ、及び、企業活動を含めて、府民の多様な文化的経済的諸活動に京都の文化の力を活かしていく取組の一層の推進が重要である」とある。本市では「京都亀岡城下町」まちなみ・まちづくり協議会が「まちづくり憲章（案）」をつくり上げた。 （6）市民力でつくり上げたこの憲章に対する所見は。 （7）この府条例や憲章（案）を具現化するためにも亀岡祭の山鉦を常設展示する「（仮称）亀岡祭山鉦会館」があればと思うがどうか。 （8）この会館ができることで祇園祭にはない鉦の常設展示に市内外からの観光客を呼び込め、そのことがシビックプライド醸成につながると考えるが、市長の所見は。 本市は、全国で2番目に「オーガニックビレッジ宣言」を行い、先日、第2期目となる「亀岡オーガニック農業スクール」が開校した。 （9）有機JAS認証による米や野菜の栽培面積・生産量はどのように推移しているか。 （10）認証取得農家数増加や規模拡大を推進するにはビニールハウス栽培面積を増やすことが不可欠と考えるがそのための支援策は。 （11）生産規模拡大とともに販路開拓の出口戦略が必要と考えるが、今後の取組は。 （12）世界に誇れる環境先進都市・亀岡市として環境に配慮した農業に取り組むためには、カーボンマイナスやJクレジットを活用した取組も必要だと考えるが実施状況は。	
--	--	---	--

			(13) 肥料袋等の廃プラスチック類について、亀岡市農業経営者クラブから市独自の回収機会を求められているが今後どのように取り組むのか。 (14) 新年度予算に（仮称）かめおかふるさと公社設立事業として480万円が計上されているが、その設立趣旨と設立に至った経緯は。	
5	齊藤 一義 （経政会） 3月3日（月） 10:00～ ※代表質問 （一括）	1 市長の政治姿勢について	本年は、亀岡市市制施行70周年を迎えたが、来年開催の「全国都市緑化フェア in 京都丹波」に向けた予算も含め、令和7年度一般会計予算は484億4,000万円と市制施行以来、最大の予算編成となっている。我が会派「経政会」は「財源無くして市民福祉無し」を会派の志として活動しており、活動方針を基軸として質問する。 (1) 亀岡新時代とは、具体的にどのような方向に本市を導くのか。 (2) 「全国都市緑化フェア in 京都丹波」開催について、大阪・関西万博は来場者確保に苦慮している。 ①「全国都市緑化フェア in 京都丹波」の集客見込みは。 ②「全国都市緑化フェア in 京都丹波」は適疎な入場者数で触れていただくのがベストだと考えるがどうか。 ③緑化フェアのために造ったガーデン等は亀岡市の景観に溶け込み、市のイメージアップにつながるよう願うとともに、緑化フェアを機に「ウェルビーイングなまちづくり」を目指してはどうか。 (3) サンガスタジアム内にある子育て施設KIRINO KOと連携し、移住促進につなげてはどうか。 (4) 今年、市民の関心事の一つとして、京都サンガF.C.の練習用地がどこに決定するかということがある。 ①適正な候補地は出てきたか。 ②候補地が決定した場合、本市が負担する費用の概算は。 ③今後、練習場に係る費用の資金確保計画はあるのか。 (5) ふるさと納税は恒久財源でないため、市制70周年を機に第三セクターを設立し、稼ぐ（株）亀岡市（仮称）をめざしてはどうか。 (6) 未来の市制100周年に向け、後継者不在の市内企業を承継していくため、（株）亀岡市（仮称）で、本市の優秀な職員（人材）を生かし、継承していく事業を立ち上げてはどうか。 (7) 新資料館構想は旧上下水道部跡地が候補地として有力であると伺っていたが、利便性や施設点在に伴う職員配置等のロスを削減す	市長

			るためにも施設を集約するべきではないか。 (8) 亀岡市が買収した、京都農業協同組合本店の敷地に資料館を移設し、ギャラリーかめおかとともに公共施設の集約化を図ってはどうか。 (9) 市庁舎は、公共施設マネジメントを行う中で、現在行っている庁舎1階北側低層棟のように随時メンテナンスが行われているが、建設後35年が経過し、水漏れ等が随所で目立っている。 ①結露等で公文書の保管等に影響を及ぼさないか。 ②各部署に対し、業務に支障を期す箇所等の聞き取り調査を行っているのか。 (10) 教育費の新規事業として、eスポーツ大会「かめおかカップ(仮称)」がある。 ①世界に通じるeスポーツの選手を育てるためには、他国のコントローラーを用意する必要があると思うがどうか。 (11) 令和6年に行われた、某住宅会社の京都府版「街の幸福度」「住み続けたい街ランキング」で、本市は10位にも入っていない。4年連続で1位に輝く大山崎町が選ばれる利点として「住宅開発が進み受け皿があり、交通の便がいい」である。 ①亀岡市は人口が減少しているため、都市計画において新規の住宅開発用地は必要ないとの考えであると伺っているが、やはり住民の受け皿として、宅地開発用地認可を要望するべきではないか。 ②大山崎町の利点である「大阪へ通勤40分」に匹敵するためには、国道423号線の整備に伴い、北大阪急行電鉄箕面萱野駅にアクセスできる政策を行うべきだと思うがどうか。 (12) 先月の降雪時のように、たびたび陸の孤島になる本市において、国道9号のバイパス化、または国道9号の4車線化が必要であり、京都丹波基幹交通整備協議会では、4車線化を大前提として要望が行われている。 ①京都市西京区と右京区との協議は継続しているのか。 ②早期にバイパス化、または4車線化の方向性を出すべきだと考えるが進捗状況は。 政府は原発事故時の避難道整備に取り組んでおり、原発の存在する福井県美浜町と滋賀県高島市を結ぶ県道が新設される。 ③原発事故時においても、陸の孤島とならないよう、国道9号整備を南丹市とともに国に要望するべきではないか。 (13) JR亀岡駅以北の増便を願う市民の声は多く、「山陰本線京都中部複線化促進協議会」での活動や本市でもJR西日本の株式を取	
--	--	--	--	--

			得する等の努力を行っているが、増便するためには乗降客を増やすことが必須であると考え。沿線は、サイクリングツアー客に魅力的な地域であり、京都府もサイクルツーリズムに力を入れている。ＪＲ常磐線のようにサイクルトレイン導入の要望を京都府とともに行ってはどうか。 (14) 市内中山間地域では、高齢化率が５０％を超え、交通弱者や買物難民は、ますます増える見込まれ、大きな課題となっている。一方で、西つつじヶ丘では、コミュニティバスの新ルートの運行やダイヤ改正が行われている。 ①中山間地における高齢者などの買物弱者のため、移動販売事業者補助金制度を設けてはどうか。 ②支援学校や小・中学校の送迎バスを有効活用し、買物難民や交通弱者の救済と利便性の向上を図ることで、市の支出抑制を図ってはどうか。 (15) ３年連続で人口が減少していた横浜市は、子育て支援に注力し、２０代から４０代が転入超過したことで、４年ぶりに人口が増加した。 ①本市の新しい子育て支援策または施設整備の予定は。 (16) 京都府は、昨年１１月に発表した（仮称）京都半導体バレー構想を基に、京都府南部の京都市や関西文化学術研究都市を中心に、ＳｉＣ（シリコンカーバイド）をはじめとする、パワー半導体や光半導体などの素材研究を担う大学・研究機関と設計や生産、商品開発を行う関連企業の拠点化を図っており、自治体は企業誘致や研究資金の確保などを担っている。さらに、来年度は、世界がしのぎを削る宇宙開発について、京都府が丹後地域を宇宙産業の一大拠点にするため、産官学連携組織設立の検討を始めるとの新聞記事があった。また、ＪＲ向日町駅東側は、京都府が進めている産業創造リーディングゾーン「ＺＥＴ－ｖａｌｌｅｙ構想」の中でニデックが２，０００億円を投じ、約５，０００人の雇用が生まれる「ニデックパーク」が展開されており、京都府は京都府南部や北部に注力されて本市は置いていかれていると感じる。 ①本市の企業誘致は、以前の産業立地対策である京都府の企業立地補助金制度の二の舞いにならないか。 ②京都府の制度は、篠インター付近に計画されている新たな工業団地の誘致に影響はないか。 ③現在「まちづくり協議会」が立ち上がっている、亀岡運動公園東側地域における地区	
--	--	--	---	--

		計画の進捗状況は。 (17) 近年、亀岡市の子育て支援政策は転入超過につながっており評価する。高齢者からは「子育てばかり」との声も聞くが、介護現場におけるケアプランの作成・共有・効率化と質の向上を目指し、データ連携システムを取り入れるなど、しっかりと高齢者福祉の増進を行っており評価するが、介護現場が計画どおり稼働していないのではないかと推測する。 ①厚生労働省が推進する「ケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業」に手を挙げ、介護現場が稼働するよう採択された補助金を投入してはどうか。 (18) 衛生費の新規予算に「歯と口腔の健康事業～歯科口腔保健の推進～」があるが、口腔ケアは高齢者のリウマチ防止、子どもは免疫力向上につながる。また、「あいうべ体操」も推進し、市民の健康増進と医療費削減につなげてはどうか。 (19) 共働き社会の実現には、学校給食が必要である。しかし、学校給食調理施設建設に南丹市では約22億円、宇治市では約26億円と多額の税金を投入して成り立っており、ランニングコストも必要になる。 ①学校給食こそ民間投資し、国内で広くコンペを実施するべきではないか。 ②セントラル方式で、建屋のみを市中心部に設け、備品や運営は民間投資で賄うことを検討してはどうか。	
	2 安全安心について	安全安心の取組について問う。 (1) 亀岡市消防団は、市民の生命・財産を守っていただいておりますが、感謝するところであるが、団員不足が深刻な問題となっている。人口減少に伴う人手不足により、市内企業で外国人雇用がますます増加すれば、外国人が災害に巻き込まれる可能性も高くなる。救助の際に言葉の壁をなくす必要があるため、外国人消防団員制度を設けてはどうか。 (2) 市民や外国人就労者の安全安心に寄与するため、消防団について、本市独自の柔軟な「公権力行使」の解釈を行ってはどうか。 (3) 本年1月8日に起きた、府道東掛小林線の水道管の水漏れについては、夜中や勤務時間外にも関わらず、早期に対処していただき上下水道部の職員には感謝申し上げますが、埼玉県八潮市で起きた管路の老朽化による漏水に伴う道路陥没事故を鑑み、微量の漏水から早期発見しておけば、甚大な事故にならなかったと考える。昨年9月議会で、豊田市を参考に本市の上下水道管路の管理・費用対効果について質問した。	市長 所管部長

		①人工衛星データによる漏水調査システムについて、調査・研究すると答弁されたが、その結果は。 (4) 本市庁舎の電話機は、パワーハラスメントやカスタマーハラスメント防止対応に改良されたが、私の経験では市民の固定電話は、ある地域では100軒に5軒や60軒に3軒しか防犯対策電話がなく、市民の財産を脅かす詐欺の被害者にならないか心配である。 ①市民に防犯電話設置の周知を徹底すべきではないか。 (5) 窃盗事件、JR長野駅やマクドナルドでの殺傷事件など、悪質な事件の解決に防犯カメラが活躍しているが、メモリーカードが抜き取られる事案や、設置場所等によっては高額になるなど、防犯カメラ設置の啓発には問題もあった。 ①最近、充電型で設置場所を選ばず、メモリーは自宅へ送信でき、安価な防犯カメラが販売されている。防犯カメラ設置の啓発を検討してはどうか。	
	3 環境先進都市について	亀岡市は、環境先進都市を目指し、令和3年に「かめおか脱炭素宣言」を表明し、令和32年までにCO2排出量実質ゼロを目指すとしている。来庁者用駐車場に太陽光パネルが設置され、目に見えて政策が市民に浸透していると思う。 (1) トランプ大統領はパリ協定を脱退し、ストローも紙製からプラスチック製に逆戻りしたが、市長の脱炭素の決意は変わらないか。 (2) 令和5年2月に作成された「かめおか脱炭素未来プラン」で目標達成に向けた対策・施策として「経済循環型ゼロカーボン亀岡」を目指すとするが、剪定枝の炭化は大阪の業者と実証実験され、年谷浄化センターの汚泥も市外へ運び処理されており、市内循環と言えない。 ①これらの剪定枝や汚泥、もみ殻、生ゴミ等をバイオマス資源として位置づけ、オーガニックビレッジ宣言をした本市として、有機農業者とともに地産地消の持続可能な社会の実現を目指さなくてはならないと考えるが、所見は。 ②有機農家と共同し、プラントベースフードのフードテック産業化に向けて、地産地消・市内循環型社会を実現するための具体的な施策を行う考えは。 (3) 総務費では、環境にやさしいまちづくり推進経費が計上されているが、クリーニング店で衣類の仕上がり時には、ハンガーとナイロンカバーケースに包まれて渡される。一部の店舗だけかもしれないが、ハンガーは回収し	市長 所管部長

		4 地域課題について	ていただけるが透明ナイロンカバーは受け取っていただけない。 ①クリーニング店で渡されたナイロンカバーを透明ごみ袋として使用可能とし、市民に資源の再利用を推奨してはどうか。 地域課題について問う。 (1) 梅岩の里生誕地整備事業で記念館の建設が進んでいる。生誕地である東別院町はもとより、亀岡市としても誇るべき新たな施設である。施設のオープン予定日は9月1日であると聞き及んでいる。特に道場では梅岩の商人道を問い、企業家や社員の研修が行われることを願う。 ①オープンの式典は日曜日に行われるため、東別院小学校の児童に参加してもらうのであれば、3月中に学校にお知らせいただけるか。 ②オープン後の維持管理計画はあるのか。 ③企業の研修には、解釈が理解しやすい森田健司著書の「江戸時代のドラッカー」に今こそ学べ！」を参考にしてはどうか。 (2) 昨年、東別院町町民から、たびたび西別院大堂区山林から流れる赤茶色の水について苦情を伺っている。 ①西別院町大堂区において、山林開発が問題に上がっているようだが、何が問題なのか。また、赤茶色の水の原因は。	市長 所管部長
6	松山 雅行 (躍動～輪の風～) 3月3日(月) 13:00～ ※代表質問 (一括)	1 市長の政治姿勢について	「人と時代に選ばれるリーディングシティ亀岡の実現」市制70周年～未来に花咲く、共に育む亀岡新時代～を掲げ、第5次亀岡市総合計画も前期5年目を迎えた令和7年度の予算内容と市長の政治姿勢について問う。 (1) 市制70周年でもある令和7年度の予算編成にかけた市長の思いは。 (2) 「亀岡市行政改革大綱2020-2024」が策定されたが、財政状況の見通しと取り組み成果は現状どうであるか。 (3) スクラップアンドビルド等の歳出改革はどのように取り組んだか。 (4) 30年後の市制100周年に向けて、どのようなまちづくりを目指すべきと考えるか。 (5) 近隣市町と連携する上で、基礎自治機能強化の重要性をどう考えているか。 (6) 市政の舵取りをする上で、地方分権の推進は必要と考えるが、検討を深める必要があると考えるものはなにか。 (7) かめおかふるさと公社の設立に至った経緯と狙いは。 (8) 本市のランドデザインを具現化していく上で公共施設の配置をどう適正化させていくのか。	市長 所管部長

			(9) ガレリアかめおかを基軸とした周辺土地の利活用について、ビジョン構想を策定する考えは。	
		2 大阪・関西万博について	「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして開催される万博ですが、本市においてもSDGsの達成に貢献するため、多様な参加者が主体となり、未来社会を共に創り上げていくことを目指した「TEAM EXPO2025共創チャレンジ」に府下でいち早く参画する等、魅力発信を市内外への発信してきた。また、今年は市内小・中・義務教育学校の児童生徒に体験の場を提供する準備を進めている。 (1) 万博で市内の児童生徒が体験する事業に懸ける思いは。 (2) 本市の魅力を市内外やパビリオン内でどのような発信を考えているか。 (3) 誰もが未来社会を体感し万博レガシーで本市発展とシビックプライドを醸成するため、自治会や各種団体に万博へ行くための助成をしてはどうか。	市長 教育長 所管部長
		3 全国都市緑化フェア in 京都丹波について	令和8年に開催される第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波は市長のリーダーシップにより開催が決定した。フェアの開催意義として、環境を尊び、食農を興し、芸術を魅せるにぎわい創出とあるが、今後の事業展開を問う。 (1) 過去の開催地と差別化を図るために、どのような独自性を出した取組を検討しているのか。 (2) 食農を組合せた地元産業の活性化につながるプログラムを構成する考えは。 (3) 環境負荷をかけずにサステナブルなガーデンや施設をつくってフェアの象徴となるものを本市でつくり環境先進都市をアピールする考えは。 (4) 市民参加型の植樹やガーデニング、音楽フェスやワークショップ等を検討してはどうか。 (5) 地産地消の食文化を発信する上で、「エディブルガーデン（食べられる庭）」の設置と体験プログラムを検討してはどうか。 (6) 有名YouTuberを起用し、フェアに関心を持ってもらい、来場意欲を促す事を検討してはどうか。 (7) 大阪・関西万博と全国都市緑化フェアを絡めながら市内外へ本市魅力をアピールし、フェアでの交流人口を増やすべきと考えるがどうか。	市長 所管部長
		4 観光振興と駅周辺のまちづくりについて	亀岡市の商業や観光を活性化させるための取組について問う。 (1) 今後の湯の花温泉～京の奥座敷～が、歩む	市長 所管部長

		方向性を組合や民間事業者に参加いただくなかで、新たな地域総合計画策定に向けて協議をするべきではないか。 (2) 川の駅・亀岡水辺公園の今後の方向性と府との連携はどのように考えているのか。 (3) 亀岡駅南周辺地区まちなみ・まちづくり構想における令和7年度の事業計画は。 J R千代川駅の東西自由通路の早期完成、ダイヤの復便は、自治会や近隣にお住まいの皆様や利用者が熱望している。 (4) 本年2月12日に行ったJ R西日本への復便などの要望を住民の署名を持ってなされたが、どうであったか。 (5) 東西自由通路整備に向けての令和7年度の計画は。 (6) 図書館分館が唯一ないJ R千代川駅周辺であるが、世代間交流を増やすための今後の設置計画は。	
	5 火葬場について	令和元年8月に新火葬場整備基本計画が策定された。令和7年度における新火葬場の整備について問う。 (1) 現在の火葬場施設利用状況は。 (2) 令和10年度完成を目指している新火葬場の建設に向けての事業進捗と今後のスケジュールは。 (3) 市内外の斎場に人員不足等などの理由もあり、待ちが多く発生している。今後需要を調査した上で、現火葬場の跡地を活用し斎場に用途変更してはどうか。	市長 所管部長
	6 災害対策について	安全・安心のまちづくりを進め、市民の生命、身体と財産を災害から保護するために対策を鋭意進めている。とりわけ大規模災害に備える避難施設として「Car Shelter 野水（仮称）」の整備等を進められているが、本市の災害対策と今後の方向性について問う。 (1) J A跡地も取得し大規模災害に備え防災・減災の拠点施設を整備する予定をしているが、本市全体として大規模避難施設や物資や救援等の拠点としてそれぞれの役割があるのか。 (2) 災害発生時における現場等の状況把握を自主防災の観点でも迅速に行う必要があるが、ドローン等を活用し被災状況確認するため備える考えは。 (3) 消防団の初期消火や出動により救われた命があり、消防団の活動の上に自分達が安心して暮らせている。活躍事例をもとにした消防団実績ショート動画を作成し、団員の必要性を改めて幅広く発信する事についての所見は。	市長 所管部長

7	原野実生子 3月3日(月) 14:30～ ※一問一答	1 亀岡市立病院における小児科について 2 出産前の助成制度について 3 授乳室における搾乳表示について 4 外国資本による土地購入等について	昨年12月より、亀岡市立病院にて小児科の夜間診療外来が開設され、保護者の喜ぶ声を聞くが、当該小児科では対象年齢が制限されており、一部内科へ促されているとのことである。 (1) 小児科外来を利用する患者の年齢制限は何歳か。 (2) 年齢制限を超えても、亀岡市立病院小児科で診察を受け入れることは可能か。 切迫早産によって、入院を余儀なくされる妊婦がいる。切迫早産による入院は3か月以上に及ぶこともあり、通常の分娩による入院スケジュールと違い、退院時には多額の負担が必要になる場合がある。 (1) 本市の切迫早産の患者数は把握しているのか。 (2) 切迫早産に関わって、保険適用外の費用が請求されることがあり、特に差額ベッド代は高額な出費となる。子どもと子育てを頑張る人を本気で応援するまちとして、助成制度の新設を検討する考えは。 令和6年12月議会にて、授乳室を搾乳であっても利用できるように表示について質問したところ、前向きな答弁をいただいた。 (1) 搾乳表示について、本市公共施設への表示の状況は。 (2) 市内の民間事業者が、搾乳可能表示をホームページからダウンロードして利用できるようになったのか。 令和5年6月議会の山木議員の質問で、外国資本、特に中国資本による土地、山林の買い漁りを指摘されており、当時外国資本に4ヘクタールの土地が購入されているとあった。また、所有者の国籍に関わらず、林地開発やその他法令に違反する森林利用がある場合は関係部局と連携して指導しているとのことである。 (1) 森林に限らず、市内全域において外国資本の企業や外国人の土地購入に規制を設ける条例を新たにすることはできないのか。	病院管理者 所管部長 市長 所管部長 市長 所管部長 市長 所管部長
8	三上 泉 3月3日(月) 15:15～ ※一問一答	1 水道料金の負担軽減について	昨年12月議会でも質問したが、基本水量に使用量が達していない世帯(件数)が4割近くある。そのような世帯には、独居高齢者などが含まれていると考えられる。受益者負担の原則は理解できるが、少量しか水道を使用していないのに20立方メートル使用分の料金を納めるのはいかなものかと考える。また、物価高騰が続くが賃金・年金等、所得は上がらず、総じて暮らしが厳しい状況にある現在において、経済的困窮者への支援は多様に進めるべきものであると考える。 (1) 上下水道料金体系について問う。	市長 所管部長

		①亀岡市の上下水道料金を、水道使用量に準じた体系に少しでも近づけられないか。 ②10立方メートル以上だけ、あるいは、水道だけ、下水道だけでも、実質使用量に準じた料金にならないか。 (2)生活困窮者への福祉施策としての上下水道料金の負担軽減策について問う。 ①かつてあった経済的困窮者への水道料金(基本料金)減額のような新規事業・施策を実施できないか。 ②かつてあった「亀岡市安心長寿の福祉助成金」と同様の交付事業(当初基本料金の2分の1)を行うとすれば、年間にどの程度の予算が必要となるのか。		
	2 障がい者の9060問題について	「8050問題」という言葉が使われ出して久しい。一般的には、80代の親が50代の子とも同居して経済的支援をしている状態を言う。中高年のひきこもりなどがよく取り上げられているが、障がい者を取り巻く状況についても深刻な実態がある。障がい者の居場所が家庭以外になく、今や「9060問題」となっている。ひとり親になり、やがて両親がいなくなると、生活の場がなくなってしまう。グループホームなどの居場所づくりが、緊急・切実な課題になっている。 (1)市内における障がい者に対する家族の負担など、困難な状況をどの程度把握しているのか。 (2)市内に、重度障がい者が日常生活を送れるグループホームのような施設はどの程度あるのか。 (3)上記のような施設が今後市内にも必要であると考え、設置する事業者が増えるように、亀岡市としての支援策が必要ではないか。		市長 所管部長
	3 街路樹が及ぼす影響と対策について	以前から、南つつじヶ丘の街路樹について調査した結果をもとに、課題を提示してきた。本市は、歩道の修繕などを計画的に行っているが、歩道の通行可能幅が狭くなったり、家屋への影響があったりなど、不安と根本的対策を求める声も出ている。 (1)歩道幅における樹木の幹の幅の占有率が高まっている箇所の対策を考えるべきではないか。 (2)巨大な根が家屋敷地内にも入り込んでいると推測されるが、影響調査と対策が必要ではないか。		市長 所管部長
	4 市営自転車等駐車場について	市営自転車等駐車場における精算機の新紙幣対応やキャッシュレス対応を求めてきた。昨年6月議会の一般質問に対する答弁では、まずはJR		市長 所管部長

		5 市施設の照明のＬＥＤ化について	亀岡駅前自転車等駐車場から導入するとのことであった。そのとおり、ＪＲ亀岡駅前自転車等駐車場に導入されたが、亀岡市が予算化して導入したものではないと聞いた。ＪＲ馬堀駅前自転車等駐車場などほかの自転車等駐車場でも切実な要望となっている。また、ＪＲ亀岡駅北口自転車等駐車場は２０２３年８月に発生した台風で屋根が壊れ、その修繕がいまだに行われておらず、利用者からも委託事業者からも不満の声が大きく出ている。 (１)新紙幣やキャッシュレスに対応する精算機を、要望の強いＪＲ馬堀駅前自転車等駐車場はじめ各市営自転車等駐車場に順次導入する考えは。 (２)今年度修繕される予定であったＪＲ亀岡駅北口自転車等駐車場の屋根は、来年度早急に修繕されるのか。また、それはいつ頃になるのか。 (３)ＪＲ亀岡駅北口自転車等駐車場は夜間照明が暗いという声を聞く。照明の充実は考えているのか。 市役所庁舎内の照明がＬＥＤになって、随分明るくなったと感じている。市役所庁舎内の照明全てがＬＥＤ化されたと聞いた。従来の蛍光灯は製造・輸出入が２０２７年には中止となる。 (１)市の施設の照明全てがＬＥＤ化されたのか。まだであれば、早急に行うべきであるが、どのように考えているのか。 (２)市立の学校や公私立の保育所、幼稚園、こども園などの照明のＬＥＤ化の状況は。 (３)学習効果を高めるためにも、学校の照明については令和７年度中に、当然全校ＬＥＤ化を完了され则认为しているが、そのように計画されているのか。	市長 教育長 所管部長
9	山本由美子 3月3日(月) 16:15～ ※一問一答	1 フェーズフリー防災の推進について 2 骨粗鬆症対策	近年、全国各地で自然災害が相次ぎ発生し、甚大な被害をもたらしている。「災害に備えよう」と社会全体で呼びかけは行われているが、行動できていない人が多いのが現実である。そのような中、日常時と非常時の局面(フェーズ)の垣根を取り払う「フェーズフリー」と呼ばれる新しい発想の防災が注目されている。 (１)フェーズフリー防災の認識と本市における取組の現状は。 (２)フェーズフリーの考え方を周知啓発する考えは。 (３)フェーズフリーの考え方をまちづくりに取り入れることについて見解は。 (４)学校教育の中にフェーズフリーを導入することについて見解は。 2024年度から2035年度までの第5次	市長 教育長 所管部長 市長

		策について	国民健康づくり運動である健康日本21（第三次）が昨年4月より開始され、その中において、女性の健康に関する項目を新設し、骨粗鬆症の検診受診率を現状より10ポイント引上げ、15%まで向上させる目標を明記している。 （1）本市における骨粗鬆症対策の取組の現状と課題は。 （2）骨粗鬆症は高齢者の疾患であると思いがちだが、過度なダイエットや妊娠・出産などにより骨密度が低下し、若いうちから発症することもある。若い世代への対策として取り組んでいることは。 （3）健康増進法に基づき、骨粗鬆症検診を導入すべきと考えるが見解は。	所管部長
		3 ネットの危険から子どもを守る取組について	児童生徒において自分専用のスマートフォンなどを所有している割合は高く、教育現場においてもGIGAスクール構想により配備された一人一台端末によって、全ての児童生徒がインターネットなどを利用できる状況となった。このため、スマートフォンなどの使用によるトラブル防止と情報モラルの向上を図ることが重要である。 （1）本市における小・中学生の自分専用のスマートフォンやタブレットの所有状況や利用状況、利用時間の現状は。 （2）情報モラルに関わる事案の発生状況と対応は。 （3）児童・生徒への情報モラル教育及び保護者への情報モラル講習会などの取組状況は。 （4）ネットいじめやトラブルに巻き込まれた場合、子どもたちや保護者がすぐに相談できる環境は整っているか。 （5）学校配布の学習用タブレット端末を活用した相談窓口を開設できないか。 （6）子どもを守るための有効な機能が備わっている愛知県警などが開発したアプリ「コドマモ」を周知・啓発してはどうか。 （7）学校配布の学習用タブレット端末に「コドマモ」アプリをインストールしてはどうかと考えるが見解は。	市長 教育長 所管部長
10	小林 仁 3月4日（火） 10:00～ ※一問一答	1 発達障がいの子の診療強化について	京都府の令和7年度予算において「子どもの心の診療ネットワーク事業」により、発達障がい診療体制の再構築を行うとある。本市においては、令和6年9月議会において、障がい者・障がい児支援体制についての一般質問に対し、「子どもの発達に関わる全ての関係機関がより一層連携できるように、新たな支援体制の構築を検討している」と答弁されたが、その進捗について問う。 （1）本市において自閉症や学習障がいなどの発達障がいのある子どもの数の推移は。	市長 所管部長

		(2) 府が管理する発達障がいなどの専門医療機関は2か所のみとされているが、本市での受診機関体制は。 (3) 本市において初診待機は発生しているのか。また、発生しているのであればその期間は。 (4) 発達障がいのある子どもや保護者の意見をどのように施策に反映しているのか。 (5) 令和6年9月議会の答弁において、新たな支援体制の構築を検討しているとあり、同年12月議会で条例制定され、本年4月1日から始動する「かめおか乳幼児教育センター」を念頭に置いたものとするがその内容は。 (6) 乳幼児期から成人までを通じ、一貫性のある継続的な支援体制について今後の展望は。	
	2 有機農業の推進について	本市では有機農業の推進に積極的に取り組んでいるが、その成果と課題について問う。また、令和5年より給食用に有機米プロジェクトを本格実施しているが、生産方法が確立していない現状において、今後の取組について問う。 (1) 現状の課題や問題点は。 (2) オーガニック米の生産は雑草対策にあり、ハードルが高く、リタイアする参加農家があると思うが、その戸数は。 (3) 有機米生産の事例紹介や有機JAS認証講習会はあるが、実際にやって失敗するケースが多く、農家個人が手探りで完成させるには無理がある。的確な指導が行える機関が必要と考えるが所見は。 (4) 有機米プロジェクトを能動的に機能させるために、参加者からモニターを募り、安定した生産技術を構築してはどうか。 (5) このプロジェクトを通じて地域にどのような変化をもたらしたいと考えているのか。 令和6年2月に開校した「亀岡オーガニック農業スクール」の効果と今後について問う。 (6) オーガニック農業スクールの一期生が卒業となったが、効果は。 (7) オーガニック農業スクールの卒業生を生かす取組は。	市長 所管部長
	3 育親学園開校1年間の振り返りについて	本市2校目となる育親学園は、義務教育学校のモデル校として開校1周年を迎えることから、総括として今後の飛躍について問う。 (1) 9年間を見通した教育課程の実施状況について、教科間の連携や、児童生徒の興味関心に基づいた学習の推進など、具体的な取組とその成果は。 (2) 地域住民や保護者からの学校運営への参加や意見反映の機会はどのように設けているのか。 (3) 義務教育学校の教職員の意識改革や、新た	市長 教育長 所管部長

			な教育課程に対応するための研修や交流はどのように行っているのか。 (4)教職員の負担軽減を図るための具体的な取組は。 (5)今後の義務教育学校のさらなる発展に向けて、どのような取組を予定しているのか。	
11	平本 英久 3月4日(火) 10:45～ ※一問一答	1 市制70周年への市長の政治姿勢について 2 子育て環境の整備と拡充について 3 環境先進都市としての取組について 4 児童生徒の学習環境の整備	市制70周年を迎えた本市として、本年実施予定の数々の周年事業や全国都市緑化フェア in 京都丹波に向けた事業内容と桂川市長の意気込みについて問う。 (1)市制70周年を迎え市長の思いと受け止め方はどうか。 (2)具体的にどのような事業や行事を行うのか。 (3)内閣府で創設された物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用すると聞くと、具体的にどのような事業を行うのか。 (4)全国都市緑化フェア in 京都丹波に向けた亀岡運動公園の再整備は具体的にどのようなものか。 これまで子どもファーストを基軸として様々な子ども施策に積極的に取り組んできた本市であるが現状と今後の取組について問う。 (1)本市における市立保育所、認定こども園及び私立保育園の待機児童並びに潜在的待機児童の現状はどうか。 (2)保育士確保に向けた新たな取組は。 (3)子育て支援団体との連携で進めている公共施設でのレンタルベビーカー配備の進捗と見通しは。 (4)市制70周年を迎え令和7年度の子育てフェスタ開催に向けた子育て支援団体との連携についての考えは。 これまで環境先進都市を目指し亀岡市環境プロモーションセンターの整備や民間企業との連携協定を締結するなど、様々な取組を行ってきた本市であるが、成果と目指す都市像について問う。 (1)亀岡市環境プロモーションセンター(Circular Kameoka Lab)の活用状況は。 (2)市制70周年記念事業が行われるがCircular Kameoka Labと各事業とのリンクや有効活用についての考えは。 (3)このたび始まった使用済み家庭用食用油の拠点回収の現状と成果は。 これまでも児童生徒のよりよい学習環境の整備を目指し、様々な取組を行ってきた本市である	市長 市長 所管部長 市長 所管部長 市長 教育長

		について	が、さらなる環境整備の充実について問う。 (1) 学校図書館において新聞配備の現状と実績はどうか。 (2) 今後の学校図書館の拡充について本市の考え方は。 (3) かめおか児童クラブの利用状況と拡充についての考えは。	所管部長
		5 インフラ整備について	道路等インフラの整備は市民生活に直結する課題であるが本市の考え方について問う。 (1) 市道馬堀停車場篠線の現状と整備進捗は。 (2) 篠町広道交差点の拡幅と整備についての考えは。 (3) 市道中矢田篠線における篠町浄法寺から東つつじヶ丘区間の道路舗装の具体的な計画は。	市長 所管部長
12	土岐 新 3月4日(火) 13:00~ ※一問一答	1 JR並河駅南側踏切の拡幅について	府道王子並河線とJR嵯峨野線が交差する大井踏切の拡幅については、令和5年度開催の大井町との地域こん談会でも取り上げられ要望されている喫緊の課題である。早急な拡幅の実現のため問う。 (1) 地域こん談会では、「京都府においては「都市計画道路並河亀岡停車場線のバイパス整備が完了することで、自動車の通過交通量が減少することから安全対策につなげたい」とあり、本市においても協力していきたい」と回答されていたが、現在のJR並河駅南側踏切の安全対策の状況は。 (2) 都市計画道路並河亀岡停車場線のバイパス整備完了後、地域道路として通行するJR並河駅南側踏切の拡幅は必須であると考えが所見は。 (3) JR並河駅南側踏切の拡幅実現への課題は。 (4) 拡幅の実現に向け、地元自治会が行うべき取組は。 (5) 府道が市道に編入される前にJR並河駅南側踏切の拡幅が実現されることを強く願うが所見は。	市長 所管部長
		2 教育について	近年、全国的に教職員不足が課題となっており、働き方の見直しや改善が必要であると考え。 (1) 府費で採用される教員業務支援員について問う。 ①教員業務支援員の配置の趣旨は。 ②教員業務支援員に必要な資格と業務内容は。 ③1週間に割り当てることのできる勤務時間は。 ④本市における現在の配置状況は。 (2) 府費で採用される非常勤講師の小1補助は	市長 教育長 所管部長

		3 上下水道設備について	実際の教育現場において非常に重要である。教職員の負担軽減はもとより、児童生徒の安全確保及び行き届いた教育や指導が最も大切であるとする。そこで小1補助について問う。 ①小1補助の配置の趣旨は。 ②小1補助に必要な資格と業務内容は。 ③1週間に割り当てることのできる勤務時間は。 ④本市における現在の配置状況は。 ⑤本市でも独自の取組として、「小1サポーター（仮称）」のような非常勤講師を配置する考えは。 (3)本市でも既に実施している亀岡市独自の支援策である不登校対策支援員について問う。 ①不登校対策支援員の配置の趣旨は。 ②不登校対策支援員に必要な資格と業務内容は。 ③1週間に割り当てることのできる勤務時間は。 ④本市における現在の配置状況は。 ⑤不登校対策支援員の配置割当て時間及び配置人数を拡充する考えは。 (4)現在、不登校対策支援員においては採用に際して補助を行っても人材確保が困難な状況である。今後、教育に特化した人材派遣を行うため、関連事業者と提携する考えは。 1月28日に埼玉県八潮市で県道が陥没し、トラックが転落した事故が起きた。下水道管の破損が原因とみられているが、本市の下水道管の状況について問う。 (1)本市において、今後10年以内に法定耐用年数を超える下水道管は何キロメートルあるのか。 (2)令和6年度の下水道管更新の計画と実績は。 (3)本市の下水道管の最大直径は。 (4)埼玉県八潮市と同様の事故が起きた場合の対応策は。 (5)人工衛星を使った下水道管調査を導入し、安全対策を強化する考えは。	市長 所管部長
13	木村 勲 3月4日（火） 13:45～ ※一問一答	1 本市の下水道管の現状と点検について	今年1月28日に埼玉県八潮市において発生した、道路陥没事故を受けて国土交通省が大規模な下水処理場と大型下水道管のある自治体に対して緊急点検を要請したと報道されている。年谷浄化センター建設後の昭和58年3月から供用開始された本市の下水道管についての今後の対応と管理について問う。 (1)本市の下水道管の総延長、設置時期、耐用年数と更新計画は。 (2)下水道管の材質、大きさと埋設の深さは。	市長 所管部長

		2 本市の上水道管の点検と更新計画について 3 桂川西工区の進捗状況について 4 小・中学校の通学路の安全について 5 市道の管理と補修計画について	(3) 下水管の点検方法と点検計画は。 (4) 今回、八潮市で起こった道路陥没の原因は。また、本市でも同様のことが起こる可能性はあるのか。 (5) 本市で同様の事故が発生した場合の対応は。 本市の上水道事業は、市制施行直後の昭和30年4月に事業認可を受け、昭和34年1月から給水を開始し、それ以降、施設拡張事業に取り組んでいる。水道管の老朽化に伴う点検と更新計画について問う。 (1) 本市の水道管の点検状況は。 (2) 初期に埋設されたまま、更新されていない水道管はあるのか。その水道管の設置時期、耐用年数と更新計画は。 (3) 水道管の点検方法と点検計画は。 (4) 水道管が破裂した際の対応は。 昨年12月末に、国営緊急農地再編整備事業桂川西工区の施工業者のうちの1社が自己破産の手続を行ったと報道があった。現在の工事の進捗状況について問う。 (1) 工事の進捗状況は。 (2) 今後、どのようにフォローするのか。 (3) 完成時期に影響はないのか。 近年、亀岡市内では住宅開発も進み、小・中学生の居住地も新興住宅地に移り、新たな通学路もできている。通学路の安全と点検について問う。 (1) 通学路の安全点検はどのように行われているのか。 (2) スクールゾーンとゾーン30の違いは。 (3) 市内にスクールゾーンとゾーン30は何か所あるのか。 (4) 今後、新設する計画は。 市道は、多く新設される中で、老朽化している路面も散見される。市道の管理・点検と補修計画について問う。 (1) 市道の総延長は。 (2) 管理と点検の方法は。 (3) 昨年度の補修距離と補修費用は。 (4) 今年度の補修に係る予算の状況は。	市長 所管部長 市長 所管部長 市長 教育長 所管部長 市長 所管部長
14	大西 陽春 3月4日(火) 14:45～ ※一問一答	1 国民健康保険事業について	令和7年度の本市の国保料は、引き上げの予定で前年度に比べて約8.7%9,897円増と聞く。市民から「国保料は他の社会保険に比べて高く払えない」という声がある。国の責任で協会けんぽの保険料並みに引き下げのため、公費負担増について全国知事会をはじめ、全国市長会や全国町村長会が求めている。国が動かない中、独自に引き下げの努力をされている市町村もある。保険	市長 所管部長

		料納付に苦勞されている世帯がある中で、払える保険料が求められる。 (1) 市長は市の独自努力により、協会けんぽ並みに保険料を引き下げのべきだと考えるか。 (2) 年収に対する国保料の割合は、低所得者にとって暮らしが成り立たないくらい重いものだ。市長の所見は。 (3) 国保財政調整基金の活用や一般会計からの繰入などあらゆる方法を取り、保険料の据え置き、もしくは引き下げをすることが重要と考えるが所見は。 (4) 昨年度の滞納者世帯数と払えない理由を具体的につかんでいるのか。	
	2 補聴器購入の公的補助について	加齢性難聴による補聴器購入に係る公的補助については令和6年3月議会でも質問した。その後の調査や検討の結果について問う。 (1) 「全国一律の基準で実施されることが望ましい」との答弁だったが、全国の公的補助の現状は把握しているか。 (2) 現在までに、検討された内容と結果は。 (3) 仮に亀岡市の予算の0.1%に満たない1,000万円を投入すれば5万円で200人に、2万円で500人に補助が可能である。実施すべきでは。 (4) 加齢性難聴の専門医と連携し、よりよい制度となるための研究はされたのか。	市長 所管部長
	3 特別養護老人ホームの状況について	少子高齢化が進む中、親やパートナーの介護が困難になったとき「特別養護老人ホーム」は大切な施設である。亀岡市の特別養護老人ホームの現状について問う。 (1) 市内の各特別養護老人ホームの待機者数と平均待機期間をどのように把握しているのか。 (2) この結果から、現在の亀岡市の状況は利用者にとって安心できる状況だと考えられるか。 (3) 令和6年9月議会で質問した「社会福祉法人等介護福祉事業利用者負担軽減制度」について、周知のため、「あんしん介護保険の制度」の冊子への掲載の検討結果はどうなっているか。 (4) 事業所の介護人材不足の状況を把握しているのか。	市長 所管部長
	4 学校給食について	亀岡市が業務委託した「亀岡市学校給食基本計画」について問う。 (1) 計画の仕様書に「民間活力等導入可能性調査業務を委託する」とあるが、これまで学校給食に関して一番大切にされてきたことは。 (2) 学校の現地調査は、小学校14校、中学校5校、義務教育学校2校を調査するとある。	市長 教育長 所管部長

			しかし、現在は中学校だけを現地調査したと聞く。親子方式では小学校で調理し中学校に運ぶことも考えられる。小学校の現地調査を行うことと、学校以外にも市が所有する土地の利用が可能かどうかを検討すべきだと考えるが所見は。 (3) 定性的評価結果が衛生管理と食物アレルギー対応において丸や二重丸となっている。判定の根拠は何か。 令和5年11月に亀岡市議会総務文教常任委員会から「学校給食に係る提言」が市長と教育長宛に出されている。令和6年12月議会においても「より良い学校給食を求める亀岡市民の会」のアンケート結果から市民の声を届けた。令和10年度完全実施に向けて今決断するときだと考える。 (4) 子どもファーストの亀岡らしく、他市に誇れる給食を、どのように考えるのか。	
15	富谷加都子 3月4日(火) 15:30～ ※一問一答	1 介護保険サービスについて	今後2040年をピークに、医療・介護のニーズが急増すると見込まれている。福祉現場の人材確保・人材育成の課題を乗り越え、安心したサービス提供体制への具体的な施策を問う。 (1) 高齢者人口の増加に応じ、質・量共に安定した介護保険サービスを確保すべきであるが、介護現場での現状と課題は。 (2) 要支援者・介護認定者が、居宅にて自立した日常生活を継続するためには、訪問介護サービスのニーズが高い。しかし、人材不足が大きな課題であり訪問介護体制は脆弱である。そこで、多様な人材育成の場として過去に本市で実施したような介護養成研修を実施できないか。 (3) 生活に不安を抱えた単身高齢者や軽度の認知症の方が増加する中、軽費老人ホーム(ケアハウス)等のニーズが増すと考えるが市の見解は。 (4) 地域包括支援センターも、高齢化の進展に伴い業務が過大化している。保険者である市町村の現状の認識は。 (5) 亀岡市いきいき長寿プラン(亀岡市高齢者福祉計画・第9期亀岡市介護保険計画)に記載のある地域包括ケアシステムの強化として地域包括支援センター職員の負担軽減の具体策は。 (6) 地域包括支援センターでの相談の一つに生前の終活相談がある。課題解決につなげる手段として、市が安心を保証する生前事務委任契約できる事業所と協定し、身内がいない方に情報共有できないか。 (7) 今後も、介護事業所と連携、協働して介護職の魅力を発信する取組を期待するが所見は。	市長 所管部長

		2 「こども誰でも通園制度」の推進について 3 障がい福祉サービスについて	親の就労の有無を問わず保育所等を時間単位で柔軟に利用できる仕組みを構築した「こども誰でも通園制度」が令和7年度から制度化し令和8年度に本格実施を目指す。 (1) 直近の年度試算で、本制度の利用条件となる生後6か月以上満3歳未満の未就園児の人数は。 (2) 本制度の目的とは。 (3) 「こども誰でも通園制度」導入にあたっては、子どもや親にとっては、よい制度であると評価するが、保育現場での負担増に危惧が生じる。具体的には、どのような課題があるか。 (4) 制度導入となれば、保育士の確保をどのように見込み、補充するのか。 (5) 国では、令和8年度から全国展開を目指しているが、亀岡市の導入の考えは。 障がい者(児)が希望する地域生活の実現に向けて、相談支援事業所の確保をはじめ環境整備による支援体制の充実を期待する。 (1) 障がい者(児)支援サービス等の支給申請者に対して支給決定前にサービス等利用計画の提出を求めているが、仕組みはどのようなものか。 (2) 指定相談支援事業所の相談業務が増加し、処理能力を越つつある現状を危惧する。特に、障がい児の通所支援サービスを受けやすくする環境整備として、制限をかけながら保護者の強い希望があればセルフプランも可能とすることで、指定相談支援事業所の負担軽減になると考えるがどうか。 (3) 亀岡市障害者サービス事業所等通所交通費助成は、通所者の経済負担軽減を含め就労意欲を後押しする施策である。しかし、現状就労継続支援B型を利用する人は、京都市内の事業所を利用する方が多く、交通費の負担は大きい。助成の拡大を望む声があるが検討できないか。 (4) 5歳児健診が自治体集団健診として、新たに地方交付税措置の対象となる見込みであり、発達特性を早期発見し適切な療育につなげることを期待しているが、市としての検討状況は。	市長 所管部長 市長 所管部長
16	大石 慶明 3月4日(火) 16:30~ ※一問一答	1 新博物館構想について	新博物館構想については、令和6年3月に「亀岡市新資料館(仮称)整備基本構想」が策定され、具現化に向け今日まで精力的に取り組んでいたところである。この度、亀岡市博物館整備基本計画(案)に対するパブリックコメントが公表され、基本構想から内容が変更されているが、これら変更点について問う。	市長 所管部長

		(1)建設予定地が旧上下水道部庁舎跡地からガレリアかめおか隣接した場所へ変更となった経緯は。 (2)京都農業協同組合（JA京都）本店及び亀岡中央支店の敷地を購入したことで新博物館建設予定地の変更との関連は。 (3)利用者のアクセス面を考慮すると、JR亀岡駅から近距離であることが好ましいと考えるが所見は。 (4)施設の想定規模が延床面積6,000平方メートルから4,000平方メートルへ変更となっているが、減少した要因は。 (5)基本構想から変更となった主な内容は建設予定地と施設の想定規模だけか。 (6)開館に向けたスケジュールは。	
	2 新火葬場の整備計画について	新火葬場の整備については、亀岡市新火葬場整備基本計画において「故郷の里山で故人を送る」をコンセプトとした新たな火葬場の具現化を図ると明記されている。 (1)将来の火葬件数の予測がされているが、現時点での予測は。 (2)火葬場の規模については、規模計画において目標面積を2,500平方メートルとしているが、変更する可能性は。 (3)当初のスケジュールでは、2025年度から運営管理の予定となっていたところ、種々の課題から遅れていることは承知しているが、運営管理のスタートに向けての今後のスケジュールは。 (4)概算事業費として約39億円が見込まれているが、現在の諸物価高騰により事業費の増加を懸念しているところである。今後、事業費の見直しを行う可能性はあるのか。	市長 所管部長
	3 市民と一体となった周年事業について	今年で市制70周年を迎えるにあたり「市制70周年記念事業・冠事業」の推進を大きなテーマとして掲げられているが、その具体的な取組について問う。 (1)市民へ冠事業の公募をされているが、現時点における応募状況は。 (2)記念事業の一環として「記念ソング」の制作等を計画されているが、ほかにどのような事業を計画されているのか。 (3)市民と一体となった事業の実施が不可欠と考えているところである。平成23年に京都府で開催された「第26回国民文化祭」において、亀岡市では民族芸能の祭典が行われ、大いに盛り上がったと聞くと、このような事業を実施する考えは。 (4)令和8年秋季に開催される「全国都市緑化フェア in 京都丹波」につながる事業の展開を計画されていると考えるが、具体的な施策	市長 所管部長

		4 人工透析患者支援について	は。 人工透析患者及び患者を支える家族から通院手段に困っているとの声を聞く。また、私ごとであるが今年1月中旬に病気で京都中部総合医療センターに入院し、その際多くの透析患者が来院されている状況であった。そこで透析患者の支援について問う。 (1) 当市における透析患者数の推移は。 (2) 施設等入所患者と非入所患者の人数内訳は。 (3) 通院タクシー等の利用者に対する負担軽減策の一環として、敬老乗車券の利用範囲を拡大し、通院患者に適用できないか。 (4) 佐賀県においては、人工透析患者通院支援事業補助金を交付しているが、当市においても導入できないか。	市長 所管部長
17	梅本 靖博 3月5日(水) 10:00～ ※一問一答	1 知的障がい者の紙おむつの支援について 2 かわまちづくりについて	知的障がい者本人と家族への経済的負担の軽減及び充実した福祉施策として、紙おむつの支援について問う。 (1) 現在、本市が障がい者福祉施策として実施している紙おむつの支援制度の概要は。 (2) 亀岡市内にある障がい者施設の責任者に知的障がい者の紙おむつの使用状況について相談したところ、事業所を利用されているご家族に対し、紙おむつの使用状況について調査を行ってくださった。その調査結果を元に問う。 ①知的障がい者の中には、排泄の自立が難しく、紙おむつが必需品となっている方が多くいると考える。本市としてこの問題をどのように認識しているのか。 ②個人情報もあり、性別・年齢などは集計していないが、成人した知的障がい者がいるご家庭では、長年にわたり、特に高額な紙おむつの費用を負担し続けている。経済的支援を必要とされている方に対する市としての見解は。 ③知的障がい者本人や家族、支援者の意見を取り入れ、制度を使いやすくしていく必要があると考えるが、本市の考えは。 ④すぐに全ての対象者に対して支援を行うことは難しいかもしれないが、今回の調査で現時点での実態が明らかになった。今後も実態を把握していくため、市で調査することを検討できないか。 河川とまち(都市・地域)のつながりを強化し、水辺の魅力を活かした持続可能な地域づくりを目指す取組「かわまちづくり」について問う。 (1)平成23年の保津川かわまちづくり計画策	市長 所管部長 市長 所管部長

		3 カーボンニュートラルについて	定後、具体的にどのような事業が進められてきたのか。 (2) 新たなニーズや社会情勢の変化を踏まえ、SDGsの視点を取り入れて、環境保全と地域活性化をよりバランスよく推進できるよう計画をアップデートする意向はあるのか。 (3) ビオトープを整備し、市として絶滅危惧種や希少植物を保護するための具体的な取組を進める考えはあるのか。 (4) 観光振興を強化し、エコツーリズムやサイクリングロードの整備を推進する考えはあるのか。 カーボンニュートラルに向け、かめおか脱炭素未来プランの目標達成を目指す中で、LED化とEV化について問う。 (1) LED照明の普及により 省エネ及び二酸化炭素の削減に期待できるが、本市の見解は。 (2) 2027年末までに蛍光灯の製造が中止されると言われているが、市内公共施設のLED化の進捗状況は。 (3) 実績に基づいた、計画的な更新スケジュールを策定しているのか。 (4) 市民や事業者へ蛍光灯からLED照明への切り替えを促進するため、補助制度の創設や啓発活動の強化を行ってはどうか。 (5) 一方で、可能な限り蛍光灯の延命化も行う必要がある。在庫の確保も含めて本市の暫定的な対応は。 (6) EVの普及が進んでいるが、本市の公用車のEV化の現状と、今後の導入計画は。 (7) EV充電インフラ（急速充電器など）の整備について、公共施設や商業施設と連携して進めていく考えは。 (8) 他の自治体では、自動運転の実証実験が進み、地域交通の課題解決に貢献しているが、本市では自動運転の導入を検討しているのか。 (9) 地元企業では「トライブリッド蓄電システム」について情報を発信しているが、今後の本市の具体的な取組は。	市長 所管部長
18	福井 英昭 3月5日（水） 10:45～ ※一問一答	1 野橋立と治水とSLについて	保津橋下流～請田口まで桂川の第1期の改修が概成し、霞堤も一部嵩上げされ、一定の保水、治水能力を発揮している。年谷川沿いには、栗山前市長肝いりの野橋立の松も植わっており、その姿も目立つようになってきた。そこには保津川下りがあり、馬車が通り、スタジアムがあり、美しい「亀岡山脈」を背景に新旧の景観が、まさに環境先進都市としてマッチしていると思っている。 (1) 治水の象徴でもある、堤防上に線路を敷き、梅小路の京都鉄道博物館のSLを走らせる	市長 所管部長

		2 ふるさと納税制度の変遷と対応について 3 ローカルプレス「犬と亀」について 4 危険な交差点の信号機整備について	のが私の夢だが、所見を伺う。 (2) 環境先進都市に、石炭で走るＳＬはやはりナンセンスだと思うか。 今や、当市の財政を支える大きな柱となったふるさと納税（京都・亀岡ふるさと力向上基金）だが、総務省では細かな改変や規則の追加など、その在り方については変化させてきている。また、この制度の根幹を揺るがしかねない事象が起きているように思う。 (1) 当市の今年度の最終寄附金額の想定は。 (2) その中での経費率とその変化は。 (3) ふるさと納税の取り扱いサイトの中には、ポイントを付与するものがあるが、このポイントを付与させないように総務省が指導しているのは本当か。 (4) ポイントを付与するサイトを当市など基礎自治体が使い続けると、いわゆる、ふるさと納税の指定自治体から外されることになるのか。 (5) 当市との最も大きな取引先であるポイントを付与しているサイトを除外すると、大変な状況が起きるのではないかと考えるが、所見は。 若い市職員からのボトムアップで、令和５年度に第０号が刊行されたローカルプレスについて問う。 (1) ローカルプレス「犬と亀」は、どのような経過で発刊することになったのか、改めて問う。 (2) 令和５年度は、第０号として発刊された。この時のコンセプトは。 (3) 令和６年度に、第１号が環境政策課を所管として発刊されたが、このコンセプトは。 (4) 今議会に提出されている、来年度に発刊を目指す第２号のコンセプトは。 (5) 亀岡市が犬と暮らしやすいまちになることが本当の目的なのか。 市道河原町余部線上の、市道余部並河線との交差点、府道王子並河線との合流点に設置されている、赤色と黄色の点滅信号が廃止されるという。 (1) 老朽化しており、更新が必要だが製品がないと聞いたが、本当か。 (2) 警察ではこれを撤去し、代わりに道路標識や交差点の注意喚起の表示で代替するというが、市としては協議できているのか。 (3) 以上のことで、交差点の危険が減少すると考えているのか、所見を。	市長 所管部長 市長 所管部長 市長 所管部長
19	竹内 博士 3月5日（水）	1 子どもへの防災教育について	今年の１月は、昨年のお日に発生した能登半島地震から１年、阪神淡路大震災から３０年とあつ	市長 教育長

		4 広報戦略とパブリックコメントについて	実態は。 (3) 長期的な視野で考えて、財源確保の観点からも、アップサイクルした物を換金して財源にする仕組みを本市独自で構築できないか。 市の基本的な政策や制度を定める計画の策定や条例の制定の前に、素案について広く市民に公表し、意見を寄せることができるパブリックコメントについて問う。 (1) 現在の告知方法と募集方法は。 (2) 件数がゼロ件のものや一桁のものもあるが、今年度のパブリックコメントにおける意見数の集計状況は。 (3) さらに市民にわかりやすい広報発信と、積極的な募集手段が必要と考えるが所見は。	市長 所管部長
20	西口 純生 3月5日(水) 13:45～ ※一問一答	1 市長の政治姿勢について 2 今、話題となっている人物について	亀岡市は市制70周年を迎えたが、今後の方向性などについて、市長の見解を問う。 (1) 令和7年度当初予算について、今年は市制70周年の記念すべき年であるが、「亀岡の変革と決断」という観点から、特に意識された内容はあるのか。また、広い視点で、どのような事業計画があるのか。 (2) 市制60周年は、スティルウォーター市と亀岡市の姉妹都市締結30周年でもあり、議長を務めていた私は、市長とともにスティルウォーター市に招待された。今でも姉妹都市での歓迎式典はすごかったと思い返している。亀岡市では、市制70周年に、どのように姉妹都市などを歓迎しようとしているのか。ホームカミング祭のような仕掛けを考えてみてはどうか。 (3) 京都・亀岡ふるさと力向上寄附金について、従来どおりの返礼品では、寄附額がいつか頭打ちになる気がするが、増額するための取組を考えているのか。 ①寄附していただいた方に、寄附金の使い道を丁寧にお知らせできているのか。また、寄附したいという気持ちを盛り上げるための取組は。 ②ふるさと納税は、大変大きな財源である。お礼状などを送る際には、寄附のお礼だけではなく、新たな返礼品を紹介するなど、今後も寄附したいと思っていただけるような対策はできているのか。 ③寄附額を増加するため、今後どのような戦略で進めていくのか。 保津川開削の角倉了以翁の生き方は、文化的観点からも検証され、高い評価を受けている。保津川開削420年に向けて、亀岡市の評価について問う。 (1) 角倉了以翁の亀岡市への貢献をたたえ、保	市長 所管部長 市長 所管部長

		3 安全・安心のまちづくりについて 4 地域課題について	津川開削420年記念事業を検討してはどうか。 (2) 京都文化創生機構の皆さんも、了以の偉大な人物像を検証されており、その文化的貢献度を高く評価されている。それを踏まえ、亀岡市はどのように、保津川開削420年を迎えようとしているのか。 日吉ダムの完成によって、私たちが子どもの頃と比較すると自然災害に対する安全度は大きく変化した。しかし、大きな災害はいつ発生するかわからない。 (1) 車中泊ができる避難所の整備状況は。避難生活に必要な不可欠なトイレ・キッチン・ベッド・洗い場を備えた避難所が、地域ごとに必要ではないか。 (2) 大戸川ダムの事業計画の進捗状況は。この計画が実現しないと桂川の流下能力が低く、上流の亀岡市・南丹市の改修整備が進まない。流下能力を高めるためには、ダムの完成が不可欠であると考えるが、亀岡市として、どのように考えているのか。 地域課題について問う。 (1) 保津郵便局は、古くから地元根付いてきた流通の拠点であるが、現在、休憩時間と称して、昼時間帯の窓口業務を休止している。 ①利便性のよさから、高齢者をはじめとした保津町民に重宝されてきたが、なぜ保津郵便局が休止の対象となっているのか。 ②人口減少が理由なのか。休止の対象となっている根拠は。 ③保津町民は、今後も保津郵便局が存続できるのか不安を抱えているが、そのことを承知しているのか。 ④保津町は、移住者が増えつつあるが、このことが原因で、今後の地域の活性化に悪い影響を与えてしまう可能性があるため、住民からこれまでどおりの営業を存続してほしいという声が高まっている。この声を郵便局に伝え、対応していただきたいと考えるがどうか。 (2) JA京都保津支店には移転の話があり、高齢者は、よりどころ・相談窓口を失うことになるのではないかと今後の動きを危惧されている。高齢者いじめをしないであらいたい。答弁を求める。	市長 所管部長 市長 所管部長
21	法貴 隆司 3月5日(水) 14:45～ ※一問一答	1 上下水道について	老朽化による事故や災害を防ぐため、上下水道施設の維持、修繕を適切に行い、安全な生活環境を維持する必要がある。 (1) 亀岡市の上下水道管の老朽化率は。 (2) 今後の更新計画は。	市長 所管部長

		(3)限られた予算と時間の中でどのような基準で更新や改修の優先順位を決めるのか。 (4)埼玉県八潮市の道路陥没事故を受け、下水道管の自主点検の予定は。 (5)上下水道事業に従事する技術系職員は不足していないか。 (6)他市では官民連携（PPP/PFI）を活用した水道事業の効率化が進んでいるが、本市の見解は。 (7)老朽化対策のための投資が水道料金にどのような影響を与えるのか。	
	2 道路行政について	道路交通法施行令の一部改正により中央線や中央分離帯等がなく、目安として幅員5.5メートル未満の生活道路の法定速度が時速60キロメートルから時速30キロメートルに引下げが、令和8年9月から施行される。 (1)亀岡市における生活道路の総延長距離は。 (2)市民への周知方法は。 (3)制限速度標識の設置や路面標示等の対応は。 (4)生活道路を運行するバスのダイヤ等への影響は。 (5)既存のゾーン30区域と新たな制限区域の整合性は。	市長 所管部長
	3 農業支援について	農業は亀岡の基幹産業であり、地域の活力を維持するためにも農業従事者の支援策をさらに充実させる必要がある。 (1)農機シェアリングサービスの稼働状況は。 (2)提供農機具の種類を増やす計画は。 (3)運搬車を追加してはどうか。	市長 所管部長
	4 市制70周年冠事業について	本年、亀岡市は市制施行70周年という大きな節目を迎えた。これを契機に市民と共に、これまでの歩みを振り返り未来へ向けた新たな一歩を踏み出す絶好の機会である。 (1)第52回亀岡光秀まつりは特別な演出を予定しているのか。 (2)第74回亀岡平和祭保津川市民花火大会は特別な演出を予定しているのか。 (3)第74回亀岡平和祭保津川市民花火大会の安全対策は。	市長 所管部長